

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年7月17日

【評価実施概要】

事業所番号	2372400412		
法人名	医療法人 宏友会		
事業所名	グループホーム ゆうゆう村		
所在地	半田市横川町2丁目101番地-1 (電話) 0569-28-5086		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成19年5月24日	評価確定日	平成19年7月17日

【情報提供票より】(平成19年5月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年4月15日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	6 人 常勤 4人, 非常勤 2人, 常勤換算 5.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	2 階建ての 1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	30,500 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,300 円	

(4) 利用者の概要(平成19年5月2日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0名	要介護2		1名	
要介護3	4名	要介護4		4名	
要介護5	0名	要支援2		0名	
年齢	平均 86.4 歳	最低	75 歳	最高	95 歳
協力医療機関名	竹内整形外科・内科クリニック				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは住宅街にあり、向かいには同法人の経営する「ゆうゆうの里」がある。里には母体の介護老人保健施設、デイケアセンター等の事業所があり日常的に連携をとっている。建物は1階に居間、食堂、風呂等の共有設備があり2階が居室になっている。特にリビングは広い畳敷きの間もあり寛げる空間となっている。職員育成として法人主催の学会を開催し、事業所や職種のチームによる研究発表の機会を設けている。入居者の重度化に対応して食事、入浴、排泄の介護を一人ひとりに合わせて支援するように努めている。重度化や終末期の対応の取り決めもあり家族との同意を得ている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 評価を受けて地域との関わりができていないことや、交流の機会が少ないことがあげられた。理念も検討し今後の改善につなげる話し合いがされた。家族には説明し協力を呼びかけ職員にも地域との関わりについて話し合いがもたれた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) いつも通り、ありのままの形で評価に望んだ。評価の意義は理解して取り組んでいる。管理者は家族や職員と話し合いを持ち、改善に向けて一歩前進した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 昨年の11月に運営推進会議が開かれて、現状を報告したがそれ1回のみであり、今後市より予定を出すように言われている。運営推進会議の取り組みとして、事故報告をして改善を、家族の意見をどう取り入れていくかなど、検討を予定している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族会はないが、運営推進会議に家族に参加してもらい、意見を出してもらえるようにしている。申し送りノートなどに家族からの意見や相談を書いて職員に知らせ運営に反映させている。家族の訪問時や月1回の利用料の支払いの時に、入居者の心身の状況や暮らしぶりを報告している。また、緊急時などは即電話連絡で対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入するという意識はあるけれど、草取りや資源回収等の活動に参加できず、迷惑をかけるとの考えで加入していない。近くの小学校の運動会に招待されたり、また、子どもたちがホームを訪問して折紙を折ってくれたり、歌を披露してくれる。お祭りの時には町内の馬が立ち寄ってくれて、入居者は楽しんでいる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な環境と地域住民との交流のもとに、利用者様一人ひとりがそれぞれの有する能力に応じ、いつでも明るく笑顔のある日常生活が送れるように支援をいたします」という理念に作り変えた。この理念は要介護度が上がって明るさがなくなっている状態を重視して作り上げた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員にはミーティングの場でプリントして渡し、制度変更と合わせて理念の内容を説明した。理念を変更してから日が浅く、どのように実践していくかの話し合いはまだできていない。入居者の能力に応じて取り組んでいきたいと話された。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入するという意識はあるけれど、草取りや資源回収等の活動に参加できず、迷惑をかけるとの考えで加入していない。近くの小学校の運動会に招待されたり、子ども達が訪問してくれたりしている。また、お祭りの時に馬が立ち寄ってくれて入居者は楽しんでいる。	○	町内会のメンバーとなり、ホームの事を知ってもらったり、地域との交流を持ちホームのできる事から始められたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を通して地域との関わりができていないことや交流の機会が少ないことがあげられた。理念も検討し問題点を出して今後の改善につなげる話し合いがされた。家族に説明し協力を呼びかけ一部の方の協力もいただいた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーは民生委員、家族、市の職員、法人事務次長、ホームの職員で構成されている。昨年11月に開催され現状を報告したがそれ1回のみであり、今後市より予定を出すように言われている。運営推進会議の取り組みとして事故報告をして改善を見出したり、家族の意見をどう取り入れていくかなど検討を予定している。	○	2カ月に1度の定例開催を期待したい。また、議事録を残し参加メンバーの意見を聞きホームの改善点を出し、話し合っていくことを期待したい。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	昨年まで市の高齢福祉課の訪問相談事業を受けていた。4月に通所、居宅、地域密着型サービス、デイサービスの連絡会がもたれた。その中で今年度より半田市地域密着型サービス連絡協議会を作ろうということになり介護保険課より呼びかけがされることになっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時、週に1~2回、また、月に1回利用料を支払いに来てもらうようにし、その時に心身の状況や暮らしぶりを報告したり、行事で撮った写真を渡している。また、緊急時などは即電話連絡をしている。金銭出納簿もあり、その月の最後に家族に渡している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は無いが運営推進会議に家族に参加してもらい、意見を出してもらえるようにしている。申し送りノートなどに家族からの意見や相談を書いて職員に知らせ運営に反映させている。また、直接ホームではなく、利用料支払い時に母体施設に言う仕組みもできている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動等は法人本部で決定するが、なるべくダメージの少ないように考えられている。職員の交代などは、基本1カ月の重なり期間を設けて引き継ぎなどスムーズに行われている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会として、法人内新人研修がある。また、法人全体でテーマ毎に10の委員会があり、全職員がテーマに分かれ委員会の研修に参加している。事業所と法人の事業目標に対して半年毎に目標を立てて自己評価することを取り入れ、職員の個々の力を引き出している。年に1回法人で学会を開催し事業所やチームで準備し発表している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	知多中南部居宅介護事業者連絡会があり月1回研修をしている。その会の理事に法人の理事が参加している。講演会や講習会が開催され参加している。また、法人の施設と関わりのある鹿児島県の老人介護施設に年1回見学会を法人で実施し参加している。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居にあたり契約の段階で1カ月様子を見て本人が馴染めるか否か判断する区切りの期間を設けている。その間、自由に生活していただき本人や家族の意見、考えを聞き入居の判断をしてもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者に生活の知恵を教わったり野菜のヘタ取りや皮むきを共にしながら食べ物大切さを学んでいる。生花をしていた入居者と一緒に週1回お花を生けたり、昼間話のできなかつた入居者と夜勤の時に一人ひとり居室で話をしたりしている。職員は入居者の励ましや笑顔に喜びを感じている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の身体状況において難しいところもあるが、開設当時からずっと入居している方もいて、共に生活しながら日々の関わりの中で声をかけ把握に努めている。困難な場合も目の動きや仕草、うなづきを見て理解しようと努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>一人の職員が2～3名の入居者を担当し、日々の生活の状況を記録し話し合い計画を立てている。家族には説明し意見を聞いて反映した計画となっている。今年度、センター方式を導入した。重度化に対応して再度、情報を蓄積し変化を見られるようにと職員、家族が参加し、より本人主体の介護計画の作成を進めている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>計画は6カ月毎に作成している。毎月のカンファレンスで評価し、3カ月毎に見直している。大きな変化がある場合には期間内であっても見直している。計画を個人毎のカルテにファイルし全職員が目を通すようにしている。担当職員は計画を随時確認し変化に対応するようにしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制を活かして毎週1回、近くの協力医の訪問診療を受診している。看護師が訪問し入居者の心身の状態を把握している。入居時に家族に医療連携体制について説明し、同意書をとっている。現在は全員が利用している。この活用により、最近は入院のケースがなくなっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医以外の利用については基本的には家族が通院の付き添いをしている。状況に応じて看護師が対応している。受診時の情報提供は書面で、不安のないように対応している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>家族には医療連携同意書で重度化した場合、入院時の入居の継続、永眠時、緊急時の対応について確認し理解、協力の同意を得ている。ホーム側として訪問診療の医師、看護師に相談できるように職員にも話し理解されている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入職時に個人情報の講習をし、誓約書をとっている。ホーム内にも個人情報保護について掲示し周知している。職員は入居者の誇りやプライバシーを損ねないよう心がけている。入居者の前で記録したり、記録を放置しないように管理に努めている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者の平均年齢は高く、身体機能が低下し車椅子利用者が数名いる状況のもとで、食事や入浴、排泄を中心に本人のペース、希望を大事に日常生活動作が退行しないように支援をしている。職員体制にゆとりがなく、日中は介護に追われており、夜勤時に個別に話し希望を引き出すように努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食はホームで作り、昼・夕食はご飯と吸物をホームで作っておかずは隣接の老人保健施設で作っている。そのため職員はゆとりをもって入居者の希望を尊重しながら野菜切りや箸並べ、食器拭きなどに参加してもらっている。入居者に優しく話しながら介助し楽しく食べる雰囲気を作っている。職員も入居者と同じ物を食べている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日に関係なく希望に応じて毎日でも入浴できるよう対応している。午前中も希望すれば入浴できる。入浴を拒否する入居者には毎日声かけし、拒否する理由の理解に努め、声かけのタイミングを工夫し週3回は入浴するよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や片付けに参加できる方には、野菜切りや箸並べ、茶碗拭きをやってもらっている。花を生ける趣味のある方には毎月生けてもらい、玄関に飾っている。花見をしたり節分の豆まき等の行事、地域の祭りや小学校の運動会の見物等の支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は天気良ければ週2回程度行っている。近くの散歩道や隣接のデイケアに行っている。車椅子用の車輦がなく散歩以外の外出はあまりできていない。	○	外出支援の検討を期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には日常鍵をかけている。以前から習慣化しており鍵をかけないケアについての話し合いはもたれていない。玄関を開けるとチャイムが鳴るように設備してある。	○	鍵をかけないケアについての検討を期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	開設以来、昨年度初めて隣接の老人保健施設と合同で職員による夜間想定火災避難訓練をした。これは老人保健施設での避難訓練で消防署の指導を受けて実施した。今年度は当ホームの訓練を7月に実施する予定である。地震災害の食品、飲料水、防災頭巾は準備しているが地震災害の訓練はしていない。	○	火災や地震の定期的な訓練の実施と地域住民の協力が得られるよう働きかけることを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝食の献立はホームの職員が立て調理している。昼夕食の献立は栄養士が立てており栄養バランスに配慮されたものとなっている。水分と食事の摂取量を記録し把握している。嗜好の要望が出せれず把握が難しいことと理由で献立に反映されていない。入居者一人ひとりに合わせてミキサー食などで支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階は共用空間で暮らしの場、2階は居室になっている。1階は広く西側がソファと置のコーナー、東側が食堂、キッチン、浴場、トイレがあり一日中過ごせる場になっている。東と南側に板張りのテラスがある。床暖エアコンが設備しており、車椅子での生活もしやすい設備で思い思いに居心地よく過ごせるようになっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、小型のタンスは用意されていたが、テレビや衣装ケース、時計、カレンダー、家族の写真、似顔絵等、馴染みの物を自由に持ち込まれ、その人らしい居室になっている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。